2011年9月号
No. 115
下大和田・小山町
谷津田だより

ちば環境情報センター・
谷津田プレーランドプロジェクト
TEL&FAX ： 043-223-7807
E-mail:hello@ceic.info
http://www.ceic.info/

はじめての谷津田から1年

稲作り見習い 柳町 健治（千葉市緑区在住）

私の初めての谷津田体験は、去年の８月の下大和田で行われたかかし作りでした。

あれから１年、とても多くのことを体験させていただきました。普通に東京に通うサラリーマンで、土日はもっぱら競馬中継に夢中だった私が、まさか、田んぼで稲を育てるようになるとは夢にも思っていませんでした。野菜ひとつ育てたことが無かったのです。

きっかけは少しずつ与えられていたように思います。もう何年も前からあらゆる食品で行われていた偽装、偽装、偽装・・・。スーパーに行っても、ラベルではその食品がどんな素性なのかはよく分からない。事故米のときは、酒造会社の人が「そんなお米を買わされていたとは知らなかった」と、自分の作るお酒の原料が、どこでどんな風に育ったのかにはまるで関心が無いかのような物言い。そして去年の春に読んだ「ハチはなぜ大量死したのか」という本。ミツバチがいなければ、世界中の野菜や果物が育たないことも知らずにいました。そしてそのミツバチがいま世界中で危機にひんしていることも。

そんなとき出合ったのが、岩澤信夫さんの「究極の田んぼ」という本でした。「そういうことだったのか」とすべてがふに落ちる気がしました。そして、稲を育てるのに、農薬も、化学肥料もいらないんだということ。たくさんの生き物の力を借りて、稲を育てることができる。しかも冷害にも強く、費用もかからず、安全でおいしいお米が。

岩澤さんは神崎で「自然耕塾」というものを開いていて、その農法を教えているということでした。　少し迷いましたが、迷うくらいならとにかくこの目で見てみようと思い、去年の８月初旬から、毎月１回神崎に通うことにしました。実際に行って岩澤さんのお話を聞いていると、今度は自分でも稲作りの実践をしてみたいと思いました。　（神崎では、田んぼの観察と教室での授業が主でした。）

私の住んでいる土気のあすみが丘９丁目の家からは、すぐ目の前に田んぼが広がっていました。　私は田んぼの広がる小山町へ坂道を下りて行って、畑仕事をしているおばあさんにたずねました。「この辺で田んぼをやらせてくれるところはないでしょうか？」　おばあさんは、「分からないけど、小学校の田んぼならあるよ。」と教えてくれました。

教えられたところへ行ってみると、小さな小さな田んぼのわきに立札が立っていました。「観察日以外は畦にはいらないでね。詳しくは「谷津田だより」で」。私はさっそく家に帰って、「谷津田だより」と検索しました。「ちば環境情報センター・・・、小西さん、高山さん、金谷さん・・・・」　みんなまじめそうな人たちだけど、すごく神経質な人だったらどうしよう・・・。大ざっぱで、めんどくさがりの私には合わないかもしれない・・・。悩んでるぐらいなら１度この目で見てみよう。　　私は８月のかかし作りに参加しました。

それからは、稲刈り、脱穀、籾すり、自然観察会、神崎の授業・・・。足踏み脱穀機に、唐箕も経験させてもらいました。　じつは私は、脱穀と籾摺りと精米の違いも分かっていなかったのです。　　・・・・　それでもご飯を食べていました。

今年の１月からは念願の自分の田んぼをまかせてもらえることになりました。谷津田の水はどこから来てどこへ流れてるんだ？　まずはいただいた種もみをあこがれの塩水選をして・・・、　「あれれれ、古代米は全部浮いちゃったぞ…」　次に浸種しなくちゃ。　でも先生は１０℃以下ならどんなに水に浸けても芽は動かないって言ってたけど、１０℃以下の水なんて…中古の冷蔵庫を買ってくるしかないのか？お風呂で催芽して、苗床は透明の衣裳ケースに田んぼの土を入れよう。そうだ和室に置いとけば温度も下がらないし、ビニールハウスの代わりになるかも。「わぁ。　部屋じゅう虫だらけに…」　　虫嫌いの家族に見つからないうちに退治しなくちゃ。　　・・・・ゴキジェットプロは偉大だ。

しょうが無いので、苗床ケースは北向き駐車場の片隅に。コシヒカリはいつまでたっても芽が出ず、古代米

はひょろひょろもやし苗に。岩澤先生曰く。　「そりゃ日照不足だ。」だって先生、小さい苗にいきなり強い光を当てちゃいけないって言ってたじゃない…。

結局なぜか芽が出なかったコシヒカリは、地主さんから苗をもらって田植えをすることに。あんなに小さく感じていた田んぼが、実際に稲刈りや、田植えや、草取りをすると広いこと広いこと。　最近は無理せず、半分仕事して、半分木陰でボーっとすることにしています。

ボーっとしていると、いろんな鳥や虫たちが遊びに来ます。どうやら少しは私のことを谷津田の仲間として認めてくれているみたいです。最近はオニヤンマが、木陰で休憩している私の目の前を行ったり来たりします。わざとらしく私のすぐ目の前をかすめるように飛んでいきます。田植えの頃は、カエルや、ドジョウや、蜘蛛たちが寄ってきて「遊ぼう！遊ぼう！」と言ってよく仕事の邪魔をしてくれました。

田植えを自分でしてみて、少しわかったことがあります。

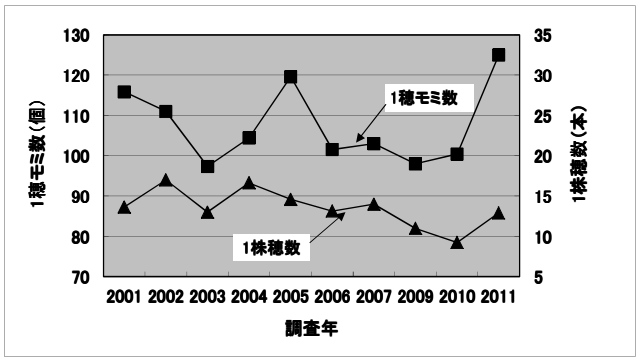
苗たちは田んぼの定められた場所に立つと、急に新たな命が吹きこめられる。まるで少年や少女が、ある日突然大人になるように。谷津田の他の生き物たちと一緒に、命の共同体の仲間入りをするということです。

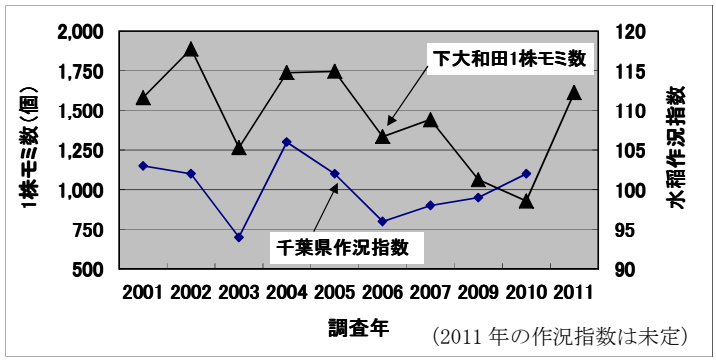
今年の下大和田のコシヒカリ生育状況

８月 20 日のかかしづくりの時、イネのモミ数を調べました。

下の左側の図のように、今年のイネは穂に付いているモミの数が非常に多く、また、１株あたりの穂の数もやや多い傾向が認められました。穂の数については８月 20 日の時点でまだ花を咲かせている穂があり、それも含めていることから、すべてがちゃんと実ってくれるかどうかちょっと心配なところがあります。モミの数は多いのですが、大きさが少々こぶりのような気がします。実際にどれくらいの収量になるのでしょう？

農水省が8月15日に行った調査に基づいて発表した今年のイネの作柄は、千葉県では平年並みで、穂数はやや少なく、1穂あたりのモミ数はやや多いとのことです。7月の日照不足の影響が心配でしたが、平年並みの収穫が得られそうで良かったですね。　（高山邦明）





（2011 年の作況指数は未定）

下大和田のかかしたち♪

里山たんけんレポート

第 139 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011 年８月７日（日）　晴れ

猛暑の後、人には過ごしやすい気温になっていますが、稲の生育にはブレーキがかかっているようで出穂にむらがでているようです。猛暑と乾燥が続いた後の気温低下は生きものに影響は出ていないでしょうか。山のセミはそれなりに鳴いているように思えましたが、例年目にする抜け殻は少ないようです。ニイニイゼミの抜け殻は特に少ないようです。

盛夏の虫の代表格のカブトムシは樹液が出ている樹にはどこも群がっていて子供たちを喜ばせました。角をもって樹から引き離そうとしてもしっかりつかまっていてなかなか引き離せず、しがみつく力の強さを感じたり、餌場のせめぎ合いが見られたり、自然の生態に触れることが出来ました。

男の子が飛んでいるオニヤンマを捕まえて大喜び、女の子たちも巨大なオニヤンマを代わる代わる手にして写真を撮り満足そうでした。オニヤンマの複眼の色、複眼のごく狭い一か所がくっついているのが特徴など他のトンボとの違いなどを観察して放してやりました。

バッタの仲間の幼体、カマキリの幼体、クモの仲間などもたくさんいるのが目につきました。

（参加者　大人 12 名、高校生５名、子ども９名；　報告：網代春男）

第 124 回 下大和田 YPP「かかしづくり」

2011 年８月 20 日（土）　くもり

猛暑から一転して９月並の陽気となり、谷津には涼しい風が吹いていました。

恒例のかかしづくり、今年はみんなで竹を切るところから始めました。斜面を登って竹林に入り、まっすぐな竹を見つけて切り倒し、枝を落とします。子どもたちも参加して真剣な顔でのこぎりをひいていました。切った竹は二人でかついで谷津を横切り、反対側のいつもの林に運んでかかしを作りました。

十文字に竹を組む時のコツや洋服の着せ方など、教えてもらいながらグループに分かれてかかしを作りました。子どもたちを中心にみんなで話し合いながら、思い思いのかかしができあがっていきます。決め手は顔の描き方。大胆に書けるグループがあれば、子どもたちが躊躇してしまい、なかなか顔が描けないグループも。それでも、お昼前には５体のかかしが出来上がり、田んぼに立てました。かかしが見守っている田んぼの風景はいつ見てもいいものですね。

最後に鳥よけのテープを張り、稲刈りに向けての準備が終わりました。そう、最初に有志でおだに使う竹も切りました。収穫が楽しみです。

力作のかかしと一緒に記念撮影（撮影：田中正彦）

（参加者：大人 16 名、小学生 ５名、幼児６名；報告：高山邦明）

第 69 回 小山町 YPP「かかしづくり」

2011 年８月 24 日（水）晴れ

季節外れの長雨から、ようやく夏の陽射しがもどり、稲穂も結実し始めました。YPP の活動日も雨だったため、かかし作りができませんでした。そのため、学校田んぼの草刈り作業日に、かかしを作ることにしました。

あすみが丘小学校からは、父兄の他、先生が４人参加してくださいました（うちお１人はお子さん３人のご家族連れでした）。大椎小学校はベテラン母さん達が子どもと参加してくださいました。

とは言え、みなさんかかし作りは初めて。かかしを 10 年近く、毎年作っている YPP の江澤さんのアドバイスのもと、古着をコーディネートして、どんなかかしを作ろうか思案することから始めました。

あすみ小の先生方にはあすみっ子田んぼのかかしを、大椎小のお母さんと子ども達には大椎っ子田んぼのかかしを作ってもらいました。

竹を組み立て、その骨組みにワラを巻きつけたあと、白いＴシャツにワラをつめて作った頭をつけます。大椎っ子田んぼには、女性のかかしをとなり、毛糸でみつあみして帽子をかぶせて一工夫しました。古着の中からスカートやエプロンをコーディネートし、優しい顔のかわいらしいかかし２体、出来上がりました。

かかしもみんなも笑顔！（撮影：松下恵美子）

あすみっ子田んぼには、３年生の清野先生に見立てた、たくましい長身かかしを作りました。

３体を田んぼに立てると、まるで人が立っているよう。９月半ばの稲刈りまで、かかしに騙されてスズメも稲に手を出せないでしょう。

かかし作りのあと、３０分ほど、畦の草刈りをして解散しました。

（参加者・大人 12 人、小学生７人、幼児３人　報告：松下恵美子）

＜谷津田・季節のたより＞

小山町

８月１３日　お盆だというのにコシヒカリが花盛り。モズの高鳴きが聞こえた。あちこちでイネの間をアジアイトトンボが飛翔。オレンジ色の若い個体が目立つ（高山）。

８月２１日　出穂を終えた黒米が例年になく背が高く生長している（高山）。

下大和田

８月　６日　８月に入っているのにコシヒカリがまばらに出穂・開花している状況（高山）。

８月２０日　コシヒカリの花がまだ残っている。イネ株の間でコナギ、オモダカ、トチカガミなどが開花（高山）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807　E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第125回 下大和田 YPP「コシヒカリの稲刈り」

いよいよ収穫の季節、まずはコシヒカリを刈ります。鎌を使った作業ですが，小さなお子さんでも大丈夫ですよ。みんなでにぎやかにサクサク刈りましょう

日　時：　2011 年 9 月 17 日（土）　10:00～14:00　小雨決行
場　所：　千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧下さい。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）
集　合：　中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00（JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分＜千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など＞ 料金は 520 円）
持ち物：　弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、
参加費（資料代等）：　ちば環境情報センター会員および家族 100 円、一般 300 円、小学生未満無料
主　催：　ちば環境情報センター　共　催：　ちば・谷津田フォーラム

▼第 141 回 下大和田 10 月の谷津田観察会とごみ拾い

アケビやクリなど実りの秋、水田雑草のコナギ、イボクサも花盛り、赤とんぼの仲間が赤くなって戻っています。秋の谷津田を巡ります。

日　時：　2011 年 10 月 2 日（日）観察 10～12 時 午後は田んぼの作業など自由活動　＊小雨決行
場　所：　千葉市緑区下大和田谷津田（下大和田 YPP に同じ）
集　合：　下大和田 YPP に同じ
持ち物：　筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費：　100 円（小学生以上、資料代など）
主　催：　ちば・谷津田フォーラム　共　催：　ちば環境情報センター

▼第 70 回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

最初の収穫はコシヒカリです。秋の田んぼで稲刈りを楽しみましょう。

日　時：　2011 年 10 月 1 日（土）10：00～12：30　＊小雨決行、荒天時は 10 月 2 日に順延
場　所：　千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）
持ち物：　飲み物、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、
参加費：　100 円（小学生以上、資料代など）
主　催：　ちば環境情報センター

編集後記　千葉では今が稲刈りの真っ盛り。あちこちの田んぼにコンバインの姿を見かけます。今年の田んぼでは稲が倒れているのをよく見かけます。7月後半、一度明けた梅雨が戻って曇り空が続いて日照不足になった影響のようです。日照が足りないと稲はお日様の光を求めて、上へ上へと生長してひょろ長い稲になってしまい、実った稲穂の重みに耐えられず倒れてしまうそうです。最近はコンバインの性能が上がったとは言え、倒れると稲刈りが大変になり、また、湿った地面に穂が着くと発芽してしまいます。
みなさんの稲刈りが無事、終わりますように。　（高山　邦明）